
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第175号(通巻第242号)

2019年7月31日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL:http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

■「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会（峡南地区）」が開催されました

第2回目の研修会（峡南地区）が、6月25日（火）に峡南地区で開催されました。若手からベテランまで地区を中心とした教員36名が参加し、充実した研修会を行うことができました。山梨大学からも9名の教員が参加しました。その内容を簡単にご紹介します。

まず初めに、昨年度まで山梨大学の理事・副学長であった堀哲夫先生から、OPPA論の概要説明がありました。堀先生は、OPPAの開発者であり、全国的に大きな影響力をもつ先生ですが、子どもの変容に対する意識を知るためにOPPシートが重要な役割を果たす事などを、わかりやすく説明していただきました。

続いて、OPPAの研究者であり実践者でもある、埼玉大学教育学部准教授の中島雅子先生から、実践事例の紹介や、参加者相互の演習による実習指導などがあり、さらに研修を深めることができました。

最後に、参加者一人一人が、本日の研修会のOPPシートを作成し、自らの変容を確認することができました。

これからの教育評価の柱ともなるべきOPPAについて、わかりやすくまた楽しく学ぶことができた研修会でした。

今後は、8月8日（木）に富士・東部地区（都留市まちづくり交流センター）、8月9日（金）に中北地区（北巨摩合同庁舎）において、開催を予定しております。

●参加者からの感想

- OPPシートによって、学習と指導と評価の一体化ができるということが分かりました。子どもの成長には必要だと思います。
- 子どもたち一人ひとりの成長を引き出すために、本質的な問いを考えるとということを普段あまり意識したことがなかったので、これから意識してやってみたいと思いました。
- 生徒が学習前後の変容を自分で確認できるようにする…という新たな視点に気づけたことが大きな学びになりました。
- 考える視点が変わったと思います。成長は毎時間の学習の中にもある、ということを改めて感じました。
- 子どもが自分の成長を見てとれる。実感することが一番気付かされた事だと思います。そういう視点はもっていませんでした。本質的な問いを考えて、今後の授業づくりに活かしていきたいです。

■教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」第25号論文募集

教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」第25号の論文を、下記要領により募集いたします。

す。多くの方々からの教育実践学研究的の推進に資する論文の投稿をお待ち申し上げます。

1. 投稿申込について

【申込資格】

- A) 教育学域・教育学研究科・教育学部の教員（附属学校園の教員・非常勤講師を含む）及び退職者（ただし、本学部等に在職時の研究に関する発表のみ可）
- B) 教育学域・教育学研究科・教育実践総合センターの客員教授、教育実践総合センターの研究員及び研究協力者
- C) 教育学研究科の大学院生・特別支援教育専攻科所属の学生（指導教員等の承認が必要）
- D) その他、センター研究紀要編集委員会が認めた者

【申込〆切】

令和元年9月30日（月）

【申込方法】

以下の項目について記したメールを jissen@ml.yamanashi.ac.jp 宛てに送ってください。

- 申込者の氏名と所属
- 共著者全員の氏名と所属
- 指導教員名（筆頭著者が大学院生の場合）
- 論文題目
- 論文の予定総ページ数

2. 原稿提出について

【提出〆切】

令和元年10月25日（金）【〆切厳守】

【提出方法】

- 図表・写真等を含む原稿のすべてをメールまたはCD、USBメモリー等により提出してください。
- 図表・写真は各々別ファイルにしてください。
- 論文全体のレイアウトのわかるプリントアウトを1部提出してください。

【提出先】

- 提出メールアドレス： jissen@ml.yamanashi.ac.jp
- CD、USBメモリー、プリントアウトの提出：教育実践総合センター事務室（J424・内線8325）

【投稿に際してのお願い】

- A) 〆切厳守をお願いいたします。
- B) 申込、原稿作成・投稿の際には、附属教育実践総合センター刊行内規と執筆要項を**必ず**ご確認ください（<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerkenkyukiyou.html>）
- C) 原稿の体裁、分量等について、編集委員会より修正をお願いすることがあります。平成30年6月20日にセンター研究紀要刊行内規が改正され、原稿の分量に関しては、**原則として1編につき刷り上がり20頁以内**とされました。また、**筆頭著者としての投稿論文は、原則として1号につき一人1編**とすることとなっています。
- D) 研究紀要は、pdfファイルによるセンターWeb公開と、掲載論文の概要等を印刷した研究紀要概要リーフレットの配布が行われますが、印刷された冊子はありません。
- E) 抜刷印刷をご希望の方は、論文著者の経費で承ります。
- F) その他、不明な点に関しては jissen@ml.yamanashi.ac.jp に御相談ください。

■模擬授業室の機能強化が図られました

模擬授業室は教育実習生の教材研究・作成や模擬授業、学部生・教職大学院生の授業等で活用され

ていますが、この4月に機能強化を図りました。

一つ目は、模擬授業室が、1室から2室に増えました。平成24年5月に使用開始したN号館3階のN-31教室に加えて、新たにM号館3階のM-304教室が模擬授業室として利用可能となりました。模擬授業室が2室に増えたことと、学生により親しんでもらえるように愛称を付けたらどうかと考え、N-31教室を「梨子ちゃんの部屋」、M-304教室を「大福くんの部屋」と呼んでこの4月から運用しています。これにより、「模擬授業室が予約でいっぱい使えない」、「模擬授業室がもっとあるとよい」、「教材研究をするスペースがほしい」という学生の声に応えることができるようになりました。

二つ目は、N-31教室「梨子ちゃんの部屋」の設備を改善しました。まず、テレビや液晶プロジェクターの利用時に天井灯が消えない（消せない）という基本的な問題を解消するため、天井灯のセンサーを前後分割式（手動コントロールも可）としました。次に、スクリーンが教室正面の黒板前に設置してあったためにDVD視聴やパワーポイント等でスクリーンを利用している間は板書ができないという問題を解決するため、スクリーンを入口近くに移設しました。また、テレビとスクリーンに同時に映像を映し出すことも可能なように調整しました。最後に、最新のデジタル機器を使った教材研究や教材作成が可能なように、天吊りの液晶プロジェクター、ブルーレイプレーヤー、スピーカー等を新設しました。

こうした改修や設備の充実は、平成30年度山梨大学戦略・公募プロジェクト「山梨大学教師塾プログラム」の経費を充てて行ったものです。2つの模擬授業室（梨子ちゃんの部屋、大福くんの部屋）の有効活用をお願いいたします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。